

「Claudeと 『チーム』に なるう！」

～プロジェクト全体像を把握させる実践ガイド～



【最大の壁：情報の断片化】チャットのたびに背景説明を繰り返す。これは本来の創造的な作業時間を奪う「無駄な手間」である。

貧弱な文脈

ズレた出力

豊かな文脈
(プロジェクト
の全体像)

完璧に意図を
汲み取った出力

Claudeを単なる便利な
チャット相手にしていないか？
『頼れる秘書』にするには、
プロジェクトの【全体像】を
共有するんだ！

AIは『次トークン
予測』で動く。
与える情報の
『文脈(コンテキスト)』が
出力精度のすべてだ！

真のチームになるための
4つの力、『4D』だ。



全体像を共有することは、何を任せるか（委任）と、目的や背景を明確に伝える力（記述）を強化することに他ならない。

1



「Projects」を選択



2



「Create Project」で
名前を付ける



3



「Custom Instructions」
に指示を記入

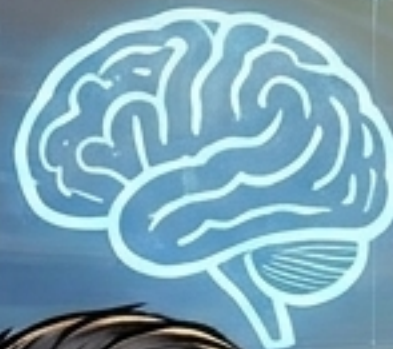


4



「Project Knowledge」
に関連ファイルを
アップロード

まずは
『情報の秘密基地』を作れ！
作業メモリを拡張し、
Claudeに長期記憶を
持たせるんだ。



これで毎回
ルールを説明しなくて
済むんですね！

私の目標は、
この新商品の企画を役員会で
承認させることです。

あなたは広報担当です。
親しみやすいトーンで
説明してください。

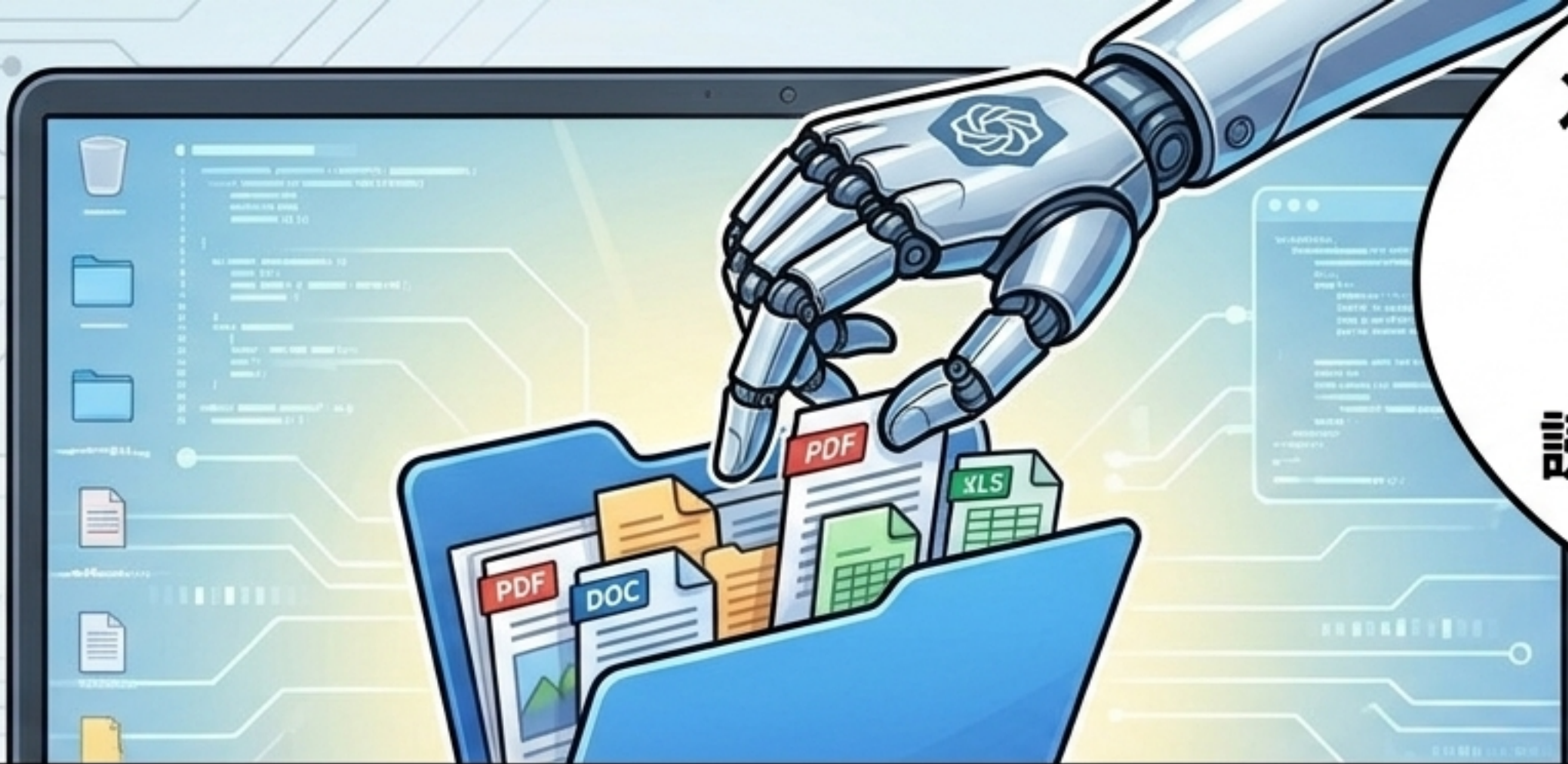
推論の過程を追えるように、
まずは声に出して考えてから
結論を出してください。

推論の過程を追えるように、
まずは声に出して考えてから
結論を出してください。

アップロードした
『市場調査.pdf』を
最優先で参照してください。

目標と背景を
明確にする
『魔法の言葉』を
セットしろ！





次はデスクトップアプリ限定の
『Cowork』モードだ！
特定のフォルダを指定すれば、
Claudeがファイルを直接
読み書きする『自律型エージェント』
に進化する。



プロンプト例

このフォルダ内の調査結果を1ページのブリーフにまとめて、同じ場所に保存して。

バラバラの情報を一つに繋ぐ！
『コネクタ』による
RAG（検索拡張生成）で、
リアルタイムの社内データに
アクセスさせるんだ。

先週のSlackの議論を
を踏まえて、
Google ドライブにある
企画書を更新して！

‘/’を入力するだけで、ツールを跨いだ複雑な指示が実行可能に。

なるほど！用途に合わせて
『記憶』『作業』『接続』を
使い分けるんですね！

	通常Chat	Projects	Cowork	Connectors
役割の メタファー	単発の対話	秘密基地	仕事部屋	知識のハブ
主な機能	記憶なし	長期記憶・ 知識の固定	自律的 ファイル操作	外部ツール 連携
データの 範囲	汎用知識	アップロード ファイル	ローカルPC フォルダ	社内SaaS データ
最適な 用途	クイックな 質問	特定業務の 継続	成果物の 自動作成	ツール横断の タスク

A man in a dark suit, white shirt, and red tie is shown from the chest up, looking extremely stressed. His eyes are wide open, and he has a sweat-drenched forehead. He is surrounded by a chaotic scene of papers flying through the air. In the background, there are several red error icons (a triangle with an exclamation mark) and a computer screen displaying a red error message. The overall color palette is dominated by blues and greys, with red accents from the error icons and the man's tie.

資料が多すぎて
途中で迷子になる
(Middle-loss) !?

外部ツールの
認証が切れた!

認証切れは再ログインだ。
AIが網羅できない
ニッチな情報は、人間が
手動でコンテキストを
補足するんだ。

慌てるな。
長すぎる資料は
適切なサイズに分ける
『チャンク化』と、
重要情報の『再提示』
を行え!



最後に一番重要なことだ。
Claudeがどれだけ自律的に動いても、
最終的な成果物のファクトチェックと
責任は【人間である君】にある。

【AIデューデリジェンス（倫理的責任）】

AIが生成したすべての内容は、私自身が
が徹底的なレビューを行っており、人間
のである私が全責任を負います。

よし、まずは今一番情熱を
注いでいるプロジェクトの名前で
『新しいプロジェクト』を
作ってみよう！

**さあ、Claudeと共に、
未来の働き方を始めよう！**